

安全データシート

2-クロロアセトアミド

改訂日: 2024-01-24 版番号: 1

1. 化学品及び会社情報

製品識別子

製品名 : 2-クロロアセトアミド
CB番号 : CB5691957
CAS : 79-07-2
EINECS番号 : 201-174-2

物質または混合物の関連する特定された用途、および推奨されない用途

関連する特定用途 : 金属加工用切削油組成物、塗料、接着剤 (Contact Dermatitis (Frosch) (4th, 2006))
推奨されない用途 : なし

会社ID

会社名 : Chemicalbook
住所 : 北京市海淀区上地十街匯煌国際1号棟
電話 : 010-86108875

2. 危険有害性の要約

GHS分類

分類実施日

H23.3.15、政府向けGHS分類ガイダンス(H22.7月版)を使用

健康に対する有害性

生殖毒性 区分2

皮膚感作性 区分1

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A

皮膚腐食性・刺激性 区分2

急性毒性(経口) 区分3

環境に対する有害性

注) 上記で区分の記載がない危険有害性は政府向けガイダンス文書で規定された[分類対象外]、[区分外]または[分類できない]に該当するものであり、後述の該当項目の説明を確認する必要がある。

水生環境慢性有害性 区分外

水生環境急性有害性 区分3

2.2 注意書きも含む GHSラベル要素

絵表示

GHS06	GHS08

注意喚起語

危険

危険有害性情報

H402 水生生物に有害。

H361 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H301 飲み込むと有毒。

注意書き

安全対策

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

応急措置

P333 + P313 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断 / 手当てを受けること。

P308 + P313 ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察 / 手当てを受けること。

P301 + P310 + P330 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。口をすすぐこと。

2.3 他の危険有害性

なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学特性(示性式、構造式 等)	: C2H4ClNO
分子量	: 93.51 g/mol
CAS番号	: 79-07-2
EC番号	: 201-174-2
化審法官報公示番号	: 2-2642; 2-1148
安衛法官報公示番号	: -

4. 応急措置

4.1 必要な応急手当

一般的アドバイス

医師に相談する。この安全データシートを担当医に見せる。

吸入した場合

吸い込んだ場合、新鮮な空気のある場所に移す。呼吸していない場合には、人工呼吸を施す。医師に相談する。

皮膚に付着した場合

石けんと多量の水で洗い流す。直ちに被災者を病院に連れて行く。医師に相談する。

眼に入った場合

予防措置として、水で眼を洗浄する。

飲み込んだ場合

意識がない場合、口から絶対に何も与えないこと。口を水ですすぐ。医師に相談する。

4.2 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

もっとも重要な既知の徴候と症状は、ラベル表示(項目2.2を参照)および/または項目11に記載されている

4.3 緊急治療及び必要とされる特別処置の指示

データなし

5. 火災時の措置

5.1 消火剤

適切な消火剤

水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。

5.2 特有の危険有害性

可燃性。

塩化水素ガス

窒素酸化物(NO_x)

炭素酸化物

5.3 消防士へのアドバイス

消火活動時には必要に応じて 自給式呼吸装置を装着する。

5.4 詳細情報

データなし

6. 漏出時の措置

6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

呼吸保護（服）を着用。粉じんの発生を避ける。蒸気、ミスト、またはガスの呼吸を避ける。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。粉じんを吸い込まないよう留意。個人保護については項目 8 を参照する。

6.2 環境に対する注意事項

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

6.3 封じ込め及び浄化の方法及び機材

粉じんを発生させないように留意して回収し、廃棄する。掃いてシャベルですくいとる。廃棄に備え適切な容器に入れて蓋をしておく。

6.4 参照すべき他の項目

廃棄はセクション13を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1 安全な取扱いのための予防措置

安全取扱注意事項

皮膚や眼への接触を避けること。粉じんやエアゾルを発生させない。

火災及び爆発の予防

粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。

衛生対策

皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。注意事項は項目2.2を参照。

7.2 配合禁忌等を踏まえた保管条件

保管条件

冷所に保管。容器を密閉し、乾燥した換気の良い場所に保管する。

7.3 特定の最終用途

項目1.2に記載されている用途以外には、その他の特定の用途が定められていない

8. ばく露防止及び保護措置

8.1 管理濃度

コンポーネント別作業環境測定パラメータ

許容濃度が設定されている物質を含有していない。

8.2 曝露防止

適切な技術的管理

皮膚、眼、そして衣服との接触を避ける。休憩前や製品取扱い直後には手を洗う。

保護具

眼 / 顔面の保護

顔面シールドおよび保護メガネ NIOSH (US) または EN 166 (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた眼の保護具を使用する。

皮膚及び身体の保護具

手袋を着用して取扱う。使用前に、必ず手袋を検査する。(手袋外面に触れずに) 適切に手袋を脱ぎ、本製品の皮膚への付着を避ける。適用法令およびGLPに従い、使用後に汚染手袋を廃棄する。手を洗い、乾燥させる。

選ばれた防護手袋は、EU指令2016/425の仕様と、それから派生する規格EN374を満たすものでなければならない。

フルコンタクト

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

飛沫への接触

材質: ニトリルゴム

最小厚: 0.11 mm

破過時間: 480 min

試験物質: Dermatril® (KCL 740 / Aldrich Z677272, Size M)

データソース: KCL GmbH, D-36124 Eichenzell, 電話 +49 (0)6659 87300, e-mail sales@kcl.de,

試験方法: EN374

EN374とは違った条件の下で、溶液の中、または他の物質と混ぜて使われる場合は、EC認可手袋の供給業者に問い合わせる。この勧告は単なる助言であり、予想される用途の特定状況に精通した産業衛生専門家並びに安全管理者により評価されなければならない。任意の使用方法について許可を受けていると理解すべきではない。

身体のプロテクト

化学防護服, 特定の作業場に存在する危険物質の濃度および量に応じて、保護装置のタイプを選択しなければならない。

呼吸用保護具

リスクアセスメントによりろ過式呼吸用保護具が適切であると示されている場所では、工学的制御のバックアップとして、N100型 (US) またはP3型 (EN 143) 呼吸用保護具カートリッジ付き全面形呼吸用保護具を使用する。呼吸用保護具が唯一の保護手段である場合、全面形送気マスクを使用する。NIOSH (US) またはCEN (EU) などの適切な政府機関の規格で試験され、認められた呼吸用保護具および部品を使用する。

環境暴露の制御

安全を確認してから、もれやこぼれを止める。物質が排水施設に流れ込まないようにする。環境への放出は必ず避けなければならない。

9. 物理的及び化学的性質

Information on basic physicochemical properties

形状 固体 (結晶) : Merck (14th, 2006)

色 無色 : Ullmanns(E) (6th, 2003)

臭い 特異臭 : HSDB (2006)

pH データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

データなし

logP=-0.53 : HSDB (2006)

エタノール、エーテルに可溶 : Sax (11th, 2004)

90,000 mg/L (25°C) : HSDB (2006)

データなし

データなし

3.2 : ICSC (2007)

0.052 mmHg (25°C) : HSDB (2006)

データなし

データなし

データなし

170 °C (OC) : GESTIS(Access on Oct. 2010)

225 (dec) °C : Merck (14th, 2006)

119-120 °C : Merck (14th, 2006)

融点・凝固点

119-120 °C : Merck (14th, 2006)

沸点、初留点及び沸騰範囲

225 (dec) °C : Merck (14th, 2006)

引火点

170 °C (OC) : GESTIS(Access on Oct. 2010)

自然発火温度

データなし

燃焼性(固体、ガス)

データなし

爆発範囲

データなし

蒸気圧

0.052 mmHg (25°C) : HSDB (2006)

蒸気密度

3.2 : ICSC (2007)

蒸発速度(酢酸ブチル=1)

データなし

比重(密度)

データなし

溶解度

エタノール、エーテルに可溶 : Sax (11th, 2004)

90,000 mg/L (25°C) : HSDB (2006)

オクタノール・水分配係数

logP=-0.53 : HSDB (2006)

分解温度

データなし

粘度

データなし

粉じん爆発下限濃度

データなし

最小発火エネルギー

データなし

体積抵抗率(導電率)

データなし

10. 安定性及び反応性

10.1 反応性

データなし

10.2 化学的安定性

推奨保管条件下では安定。

10.3 危険有害反応可能性

データなし

10.4 避けるべき条件

データなし

10.5 混触危険物質

強酸化剤, 強酸, 強塩基類, 強還元剤

10.6 危険有害な分解生成物

火災の場合:項目5を参照

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラットLD50値 138 mg/kg (BUA Report 225 (2000))。 (GHS分類:区分3)

経皮

データなし。 (GHS分類:分類できない)

吸入

吸入(粉じん・ミスト): データなし。 (GHS分類:分類できない)

吸入(蒸気): データなし。 (GHS分類:分類できない)

吸入(ガス): GHSの定義における固体である。 (GHS分類:分類対象外)

皮膚腐食性・刺激性

ウサギ3匹に生理食塩水でペースト状にした試験物質500 mgを4時間適用した試験(OECD TG 404)で、パッチ除去後1時間~3日に1匹が軽微な紅斑と浮腫、2匹目が中等度の紅斑と浮腫、残りの1匹が重度の紅斑と中等度の浮腫を示し、刺激症状はパッチ除去7日後には全て回復し、軽度の刺激性(slightly irritating)と評価された(BUA Report 225 (2000))が、3匹のうち2匹でパッチ除去後1時間~3日において中等度以上の紅斑が認められている。(GHS分類:区分2)

眼に対する重篤な損傷・刺激性

ウサギの結膜嚢に試験物質100 mgを適用した眼刺激性試験(GECD TG 405.)で、適用1~7時間後に重度の結膜の発赤と浮腫に加え角膜混濁が認められた。症状の消失は非常に緩やかであったが、21日後には回復し、眼に刺激性あり(irritating to th eye)との評価(BUA Report 225 (2000))。(GHS分類:区分2A)

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性:ヒトで本物質による接触アレルギー性皮膚炎の誘発は、多数の症例報告とともに患者や健常被験者を用いたパッチテストでの陽性報告もある(BUA Report 225 (2000)、HSDB (2006))。また、モルモットのマキシマイゼーション試験において、最初の惹起で陽性率60~80%、再惹起で陽性率80%と動物で高率の感作が見られ、本物質は強い感作性を有すると結論された(BUA Report 225 (2000))。さらに、本物質は切削油剤、塗料、接着剤などで防腐剤として、また、皮革の防腐剤として使用され、理髪師や製靴業者に接触皮膚炎を起こす可能性があり、皮膚感作性物質として掲載されている(Contact Dermatitis (Frosch) (4th, 2006))。(GHS分類:区分1)

呼吸器感作性:データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖細胞変異原性

マウスの腹腔内投与による優性致死試験(生殖細胞 in vivo 経世代変異原性試験)、チャイニーズハムスターの経口投与による精原細胞および骨髄を用いた染色体異常試験(生殖細胞および体細胞 in vivo 変異原性試験)、マウスに経口投与による骨髄を用いた小核試験(体細胞 in vivo 変異原性試験)の各試験において、いずれも陰性結果が報告されている(BUA Report 225 (2000))。なお、in vitro 試験では、Ames試験で陰性(BUA Report 225 (2000))。(GHS分類:区分外)

発がん性

データなし。(GHS分類:分類できない)

生殖毒性

2系統(CDおよびBDIX)のラットを用い、妊娠13、14日目に50 mg/kgを皮下投与した試験で、出生前の仔の発生に及ぼす影響は見られなかったが、2系統共に出生後に仔の約半数に死亡をもたらしたと報告されている(BUA Report 225 (2000))ことに加え、EUではGHS Repro cat. 2としていていることから区分2とした。なお、ラットの妊娠、7,11,12日目に20mg/kgを腹腔内投与した試験において、仔への影響は認められない(BUA Report 225 (2000))との報告もある。また、カナダでは本物質は2009年に使用禁止となっており、再度市場に出す場合は評価が必要としている。(GHS分類:区分2)

特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)

データなし。(GHS分類:分類できない)

特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)

ラットを用いた3ヵ月混餌投与による2件の試験において、いずれも最高用量の50 mg/kg/day以上で精巣重量の有意な低下と精子形成能の障害が報告されている(BUA Report 225 (2000))が、別に生殖毒性の項で有害性として分類されているので分類対象としなかった。その他の影響については悪影響の報告はなく、ガイダンス値範囲上限(100 mg/kg/day)またはそれ以上の用量での影響は不明である。また、ウサギを用いた30日間経皮投与試験において、100 mg/kg/day(90日換算:33.3 mg/kg/day)以上で肝臓と心臓の脂肪浸潤、脾臓のヘモジデリン沈着が報告されている(BUA Report 225 (2000))が、血液等の検査で影響が見られず、病理学的変化の程度および意義の詳細不明。(GHS分類:分類できない)

吸引性呼吸器有害性

データなし。(GHS分類:分類できない)

12. 環境影響情報

12.1 生態毒性

魚毒性

LC50 - *Carassius auratus* (金魚) - 19.8 mg/l - 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 - *Daphnia magna* (オオミジンコ) - 14 mg/l - 48 h

12.2 残留性・分解性

生分解性

好気性 - 曝露時間 28 d

結果: 94 % - 易分解性。

(OECD テスト ガイドライン 301B)

12.3 生体蓄積性

データなし

12.4 土壤中の移動性

データなし

12.5 PBT および vPvB の評価結果

化学物質安全性評価が必要ではない/行っていないため、PBT/vPvB評価データはない。

13. 廃棄上の注意

13.1 廃棄物処理方法

製品

免許を有する廃棄物処理業者に、余剰物で再使用不可の溶液として処理を依頼する。可燃性溶剤に溶解または混合し、アフターバーナーとスクラバーが備えられた化学焼却炉で焼却する。汚染容器及び包装製品入り容器と同様に処分する。

14. 輸送上の注意

14.1 国連番号

ADR/RID (陸上規制): 2811 IMDG (海上規制): 2811 IATA-DGR (航空規制): 2811

14.2 国連輸送名

IATA-DGR (航空規制): Toxic solid, organic, n.o.s. (chloroacetamide)

IMDG (海上規制): TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (chloroacetamide)

ADR/RID（陸上規制）：TOXIC SOLID, ORGANIC, N.O.S. (クロルアセトアミド)

14.3 輸送危険有害性クラス

ADR/RID（陸上規制）：6.1 IMDG（海上規制）：6.1 IATA-DGR（航空規制）：6.1

14.4 容器等級

ADR/RID（陸上規制）：III IMDG（海上規制）：III IATA-DGR（航空規制）：III

14.5 環境危険有害性

非該当

ADR/RID: 非該当 IMDG 海洋汚染物質(該当・非該当): IATA-DGR（航空規制）：非該当

14.6 特別の安全対策

なし

14.7 混触危険物質

強酸化剤, 強酸, 強塩基類, 強還元剤

15. 適用法令

船舶安全法

毒物類・毒物(危規則第3条危険物告示別表第1)

航空法

毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)

16. その他の情報

略語と頭字語

TWA: 時間加重平均

STEL: 短期暴露限度

RID: 鉄道による危険物の国際運送に関する規則

LD50: 致死量 50%

LC50: 致死濃度 50%

IMDG: 国際海上危険物

IATA: 国際航空運送協会

EC50: 有効濃度 50%

CAS: ケミカルアブストラクトサービス

ADR: 道路による危険物の国際輸送に関する欧州協定

参考文献

【1】労働安全衛生法 ウェブサイト <https://www.mhlw.go.jp>

【2】化学物質審査規制法（化審法）<https://www.env.go.jp>

- 【3】化学物質排出把握管理促進法（PRTR法） <https://www.chemicoco.env.go.jp>
- 【4】NITE化学物質総合情報提供システム（NITE-CHRIP） <https://www.nite.go.jp/>
- 【5】カメオケミカルズ公式サイト <http://cameochemicals.noaa.gov/search/simple>
- 【6】ChemIDplus、ウェブサイト <http://chem.sis.nlm.nih.gov/chemidplus/chemidlite.jsp>
- 【7】ECHA - 欧州化学物質庁、ウェブサイト <https://echa.europa.eu/>
- 【8】eChemPortal - OECD 化学物質情報グローバルポータル、ウェブサイト <http://www.echemportal.org/echemportal/index?>
pageID=0&request_locale=en
- 【9】ERG - 米国運輸省による緊急対応ガイドブック、ウェブサイト <http://www.phmsa.dot.gov/hazmat/library/erg>
- 【10】有害物質に関するドイツ GESTIS データベース、ウェブサイト <http://www.dguv.de/ifa/gestis/gestis-stoffdatenbank/index-2.jsp>
- 【11】HSDB - 有害物質データバンク、ウェブサイト <https://toxnet.nlm.nih.gov/newtoxnet/hsdb.htm>
- 【12】IARC - 国際がん研究機関、ウェブサイト <http://www.iarc.fr/>
- 【13】IPCS - The International Chemical Safety Cards (ICSC)、ウェブサイト <http://www.ilo.org/dyn/icsc/showcard.home>
- 【14】Sigma-Aldrich、ウェブサイト <https://www.sigmaaldrich.com/>

免責事項:

本MSDS中の情報は指定された製品にのみ適用され、特に規定がない限り、本製品とその他の物質の混合物には適用されません。本MSDSは、製品使用者の適切な専門的なトレーニングを受けた者にのみ製品安全情報を提供します。本MSDSの使用者は、本SDSの適用性について独自に判断しなければならない。本MSDSの著者は、本MSDSの使用によるいかなる傷害にも責任を負わない。